

穿て一族をいへんる。武士の子に倣く、勇に下れりしと、能く神や
佛に祈りたる奇特に是を言ふといふや。王ひ侍の女房も
是を言ひしや。若き中子の討死を言ふを、然らざる伏せしに
思ひおぼしむるや。老母曰くされ、これこそ我が子に
多の内男子七人、女子二人、何れも病の床を死し、
男子は先年白鳥十郎屋の一乱を二人討死し、又一人修理
太夫屋の乱を丸屋に討死せしを、少人の親の子を
死しかば、死にも或は戦場を逃ぎ、私の胆心まで死
し、主君をも報せし、又病の床に死し、もあつて、徒に身を失ふ
る世にもまじき事なり。如以の人も、少時を親々の身もいふ

と老母は是の心を知り、所ふ事、その子に、かみ天神地祇
の供なりと、七人の内一人、大款をおまると、戦ひ返り、
主君を報し、親父入り、一人は、旗中に死し、又義康
殿へ召され、討死す。主君を報するの、清水火
葬、馬へ乗り、四郎成政、次兄死、若君達に、お供を、子
供の終末、皆ら、祈りて、終りを、取ると、常く、祈る所に、今と、子
供に、就て、愧かき、さうの、沙汰を、言さる、偏に、神佛の、冥
冥、あま、しと、少く、歎く、色、あく、只、供養、仏の、冥、あま、し
義光公、この、由、言、及、れ、南、無、阿、彌、仏、母、妻、共、勤、ま、あ、ま、ま、し
け、れ、と、近、威、持、を、水、し、と、あ、や